

住宅市況悪化でも受注好調

キクザワ 菊沢里志社長



道央圏で高性能の戸建て住宅を展開するキクザワ(本社・恵庭)。菊沢里志社長(60)は、地域に根差す工務店グループ「アース21」の会長で、建築関連制度などについて情報共有する「北海道ビルダース協会」の代表理事を務める工務店業界のリーダー格だ。住宅市場は、昨年こそコロナ禍からの復調が見られたものの年明け以降は失速。現状をどう見るか尋ねた。

「住宅、特に戸建ての着工数が減っている。ど

よって地価が数年前の倍になっている。

土地については政府の

家も土地も価格が上が

りすぎている。ウッドシ

ョックやウクライナ情勢

の影響で資材が高騰して

いる上、昔のような宅地

造成がないため土地が足

りない。地元の恵庭に限

らず全道全国で、場所に

本全体で85万戸だった

が、こじしは70万台に減

っていないのか。

キクザワでも受注は

減っているのか。

幸い好調で、現時点で

近では物価高で坪単価が

棟数を年20棟程度と決め

ているため長く待っても

らうことになり、また最

場ですす一ツ以上は新し

い事にチャレンジしてお

り建てるのなら成長はな

い。私は社員に、一つの現

場で必ず一ツ以上は新し

い事にチャレンジしてお

り建てるのなら成長はな

い。私は社員に、一つの現

場で必ず一ツ以上は新し

い事にチャレンジしてお

り建てるのなら成長はな

い。私は社員に、一つの現

家のレベルと共に成長



若年層向けに低価格住宅を大量に売る、営業社員が多い会社ではないか。資材高で安さを保てず、アピルポイントが薄れるだろう。加えて最近ではSDGs(持続可能な開発目標)が重視されてい

て、家の断熱性が足りずエネルギー消費が大きいこと、耐久性が低く取り壊しまでの年数が短いこ

となく、環境負荷の大き

さも時代に合わなくな

ってきた。今の情勢が続

けば経営破綻する会社が出

てくる。

地域工務店が見直さ

れる時代が来るか。

残念ながらそう一律に

は言えない。工務店の中

には法改正や制度変更な

どを勉強していない会社

も多い。地域の工務店は

お客さま、取引業者さん

お聞き手・吉村 慎司

きくざわ・さとし 1962年3月恵庭市出

身。日大生産工学部建築工学科卒業後、本州の建

築会社勤務などを経て89年家業に入り、2000

年2代目社長就任。10年アース21会長、21年北海

道ビルダース協会代表理事に就いた。

客さまに提案するように

言っている。そうして実現

した部分を住む人が気に

入ってくれば、それを見